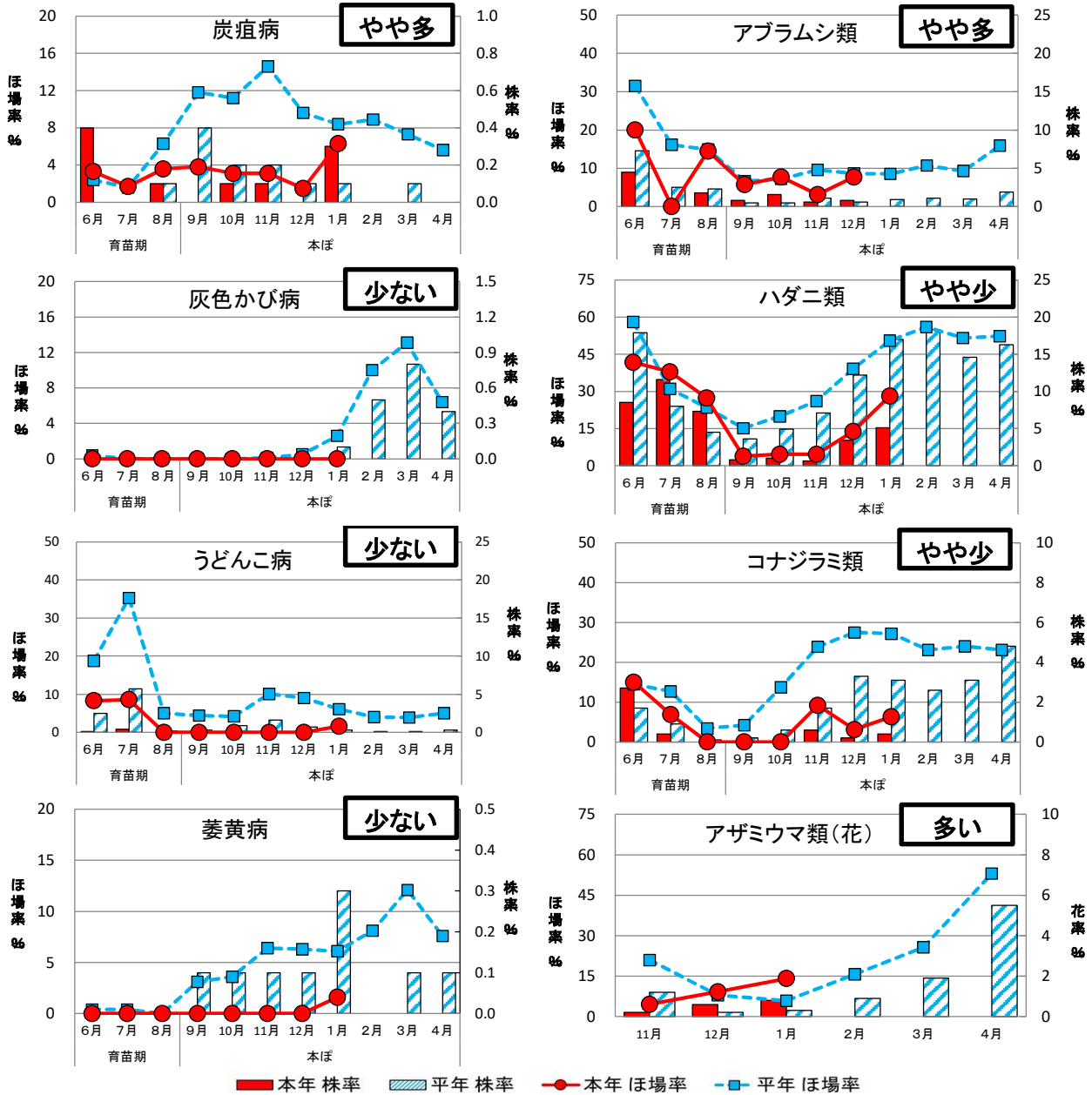


いちご病害虫情報第8号（1月）

令和6（2024）年1月19日
栃木県農業環境指導センター

■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：64か所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

■ 今月の防除ポイント

ー アザミウマ類の対策 ー

平年より多く見られています。発生を認めたら防除を行い、被害の拡大を防ぎましょう。

- 1 低密度のうちにカウンター乳剤(I:15)等を散布する。観察した花の1割以上にアザミウマ類の寄生が見られる場合は、速やかにスピノエース顆粒水和剤(I:5、カブリダニ等の天敵に影響があるので注意する)等を散布する。
- 2 青色粘着トラップを設置すると、発生及び侵入状況を早期に知ることができる。
- 3 同じ薬剤であってもミカンキイロアザミウマとヒラズハナアザミウマでは防除効果が異なる。また、薬剤感受性の低下を避けるため、必ずRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

■ 今月のトピックス 灰色かび病

被害症状について

灰色かび病は、果実、ガク、果梗、葉、葉柄を侵し、灰色のカビが密生します。果実がもっとも侵されやすく幼果が侵されると、病斑は速やかに果実全体に広がり、褐変あるいは黒褐変し、多湿のときには、軟化腐敗します。枯死した部位や、古葉、収穫後の果梗、果実にも発生します。

曇天、降雨が続くと発生が広がりやすく、特に例年2～4月頃の発生が多くなるので注意しましょう。

収穫後に、流通段階で発病、腐敗することがあるため選別に注意しましょう。



果実の病斑



果実全体に密生する灰色のかび



花弁が残る果実の暗褐色初期病斑



葉柄の基部に発生した病斑

防除対策について

- 1 多湿条件で発生しやすいので、下葉を除去し株元や果房の風通しをよくする。
- 2 曇天時のかん水過多に注意し、保温状況を確認しつつ、換気時間を確保することで、ハウス内の湿度を下げる。
- 3 発病した果実や果梗、枯死した部位は伝染源となるので、ほ場を良く観察し、見つけたら速やかに取り除き、施設外で処分する。
- 4 発生初期に薬剤防除を行う。